

HOT

インタビュー



山口 明彦さん
(三重県組紐協同組合)

ここでは、当中央会から委嘱を受けて、組合等の業界の景気動向を毎月当会へ情報提供して下さっている情報連絡員さんにプライベートを含めてのお話を伺っています。

組合と私！

私は、平成8年ごろから青年部長として当組合に参画し、現在は副理事長を務めています。組合員は多いときで約100名、当時は50数名で青年部員は約15名いました。しかし、現在の組合員数は33名で、後継者も少なく、70歳の方でもバリバリの現役としてご活躍されています。

「組紐」と一口に言っても、組合員の仕事内容は様々です。手組、機械組、催事専門の方、組紐教室をされている方などなど。

私は、主に受注生産を行っており、京都などの問屋から注文が入ると、帯締め等の組紐の下準備である糸を選び、染色し、織子さんに組んでもらっていますが、納期が短いものや新作などは、自身で手組により組んでいます。組紐は、細いものから太いものがあり、染色も何千色と組み合わせることができるので、お客様の要望にあったものをそろえ、完成させていきます。



また、「伊賀くみひも」は、地域団体商標に登録されました。igaの「i」と組紐を組んでいるところをバイヤス模様で表現した認証マークが目印です。

業界の現況は？

成人人口が減少しており、そのうえ、着物は特別な日だけに着ることが多く、帯締め等の売れ行きは厳しい状況です。しかし、一方では、レンタル衣装が増えてきています。また、最近では、浴衣でも帯締めをするなど着方も変わってきました。正絹にこだわってきた帯締めも、浴衣の場合は汗をかいてもにじまない化繊の帯締めが人気で、値段もお手頃価格で販売しています。



伊賀くみひもセンター

帯締めや羽織紐のほか、ネクタイ、ベルト、アクセサリ、キーホルダー、置き物、ストラップ、そして今年はお伊勢さんの式年遷宮用の根付など組紐製品はたくさんあります。

情報連絡員として心がけていることは？

情報連絡員として、約3年情報の提供を行っています。当組合の状況は、理事会でアンケートを行ったり、問屋さんに聞いて情報を得てお伝えしています。

休日等の楽しみ方は？

家にいるとついつい仕事をしてしまうので、休日を楽しむために、夫婦でカフェめぐりや美術館に行くことがあります。

妻も、私も、平日頃組紐で何ができるかと考えているため、美術館での鑑賞が組紐での作品づくりのヒントになったりして、結局、仕事につながってしましますが(笑)。

ひとこと！

忍者になりに「伊賀上野N I N J Aフェスタ」へ来てください。これは伊賀市街地での春恒例のイベントで、今年は5月6日(祝)まで開催されます。期間中の土・日・祝日には「忍者変身処」や「忍者犬変身処」が開設され、ご自身や子供さん、ワンちゃんも一緒に忍者に扮することができますよ。手裏剣打ちや吹き矢などの忍者修行も楽しめます。



三重県組紐協同組合 (平成24年4月～平成25年3月)

★売上・受注額

23/4	5	6	7	8	9	10	11	12	25/1	2	3
➡	⬇	➡	⬇	➡	⬇	⬇	➡	⬇	➡	➡	➡

★収益状況

23/4	5	6	7	8	9	10	11	12	25/1	2	3
⬇	➡	➡	⬇	⬇	⬇	➡	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇